

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000389		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グループホーム グッドケア・大麻新町 1階		
所在地	江別市大麻新町10番地の11		
自己評価作成日	令和3年12月2日	評価結果市町村受理日	令和4年5月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0191000389-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和3年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様も職員とともに協働して、アットホームな雰囲気を感じ、現在、新型コロナウイルスの影響にて外出の機会はめっきりと減ってしまっている中でも感染予防に努めながら気分転換を兼ねドライブなども行っています。職員と共に毎日家事に参加していただき中には自身の役割や楽しみになっている方もおります。季節に合ったしつらえを作成する際も会話をしながら行われています。新型コロナウイルスの影響にて面会制限を行う中でも心構えは変わらずにご家族様やご友人にも、いつでも訪問して頂けるような、環境づくりに努めています。入居者様も家族のように接していただいておりますが、馴れ合いにならぬよう一人ひとりの尊厳を尊重・保持し、入居者様も職員も、生き生きと生活出来るような関係を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は大塚地区の閑静な住宅街に位置し、隣接して公園や自治会館があり、鉄筋コンクリート2階建ての大きな窓から地区の子供たちが公園で遊ぶ姿を眺めたり、四季折々の花々や紅葉などを楽しみながら散歩をおこなっている。開設当初からの管理者の下地域と良好な関係ができ、地域住民から果物・野菜を頂いたり、運営推進会議に町内会の役員、家族の参加があり、利用者にとってのケアの在り方を研鑽している。また、耐火構造であるため災害時の地域の避難場所に指定されている。職員体制を保持することに課題はあるが、不足時、緊急時には運営会社傘下の他事業所と相互に協力できる。家族的な雰囲気を大切に、利用者職員が共に生き生きと生活できるように環境作りを心掛け、隣接する公園や町内の散歩を楽しんだり、敷地内の畑で野菜作りをして地域住民と交流し、収穫物が食卓を飾り食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を明確にし、誰でも目にする事ができる場所に提示し、それぞれのフロアの個性を大切に、できる目標を掲げ、共有できるように努めています。	理念を事務所、各フロアに掲示して職員で共有して実践に繋げている。	事業所理念について、会議や内部研修の場などで話し合い、より理解を深めることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、夏祭りや自治会の避難訓練に参加し、地域の一員として交流しています。毎年、敬老の日には町内会より慰問があり、交流を深めています。(現在は新型コロナウイルスの影響にて中止している。)	地域の一員として町内会に加入し、自治会の避難訓練や夏祭りなどに参加したり、敬老の日には町内会の慰問があり交流している。(現在はコロナ禍により中止している。)地域住民が家庭菜園の野菜を届けてくれたり、敷地内の野菜作りで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向けの広報誌を年1回程発行し、事業所としての取り組みや、ホームでの日常生活等を載せています。又、運営推進会議等で認知症の理解を深めていただく為、ご家族や地域の方々も交え意見交換であったり質疑・応答などを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年、事業所としての方針を説明し報告を行っています。新型コロナウイルスの影響にて場所を入居者様に接しないよう会館にて行い、お互いに話し合える場を設け、ご家族様からのご意見やご希望に対して真摯に受け止め改善策を話し合っています。	コロナ禍のため、運営推進会議は2か月に1回職員のみが参加して行い、結果は文書により関係者に情報を提供し、質問や意見について事業所内で話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当の方には色々なことを相談できる関係です。事故が起きた時には速やかに報告し、改善策を相談しています。	市の担当者とは必要に応じていつでも電話で連絡・相談できる体制ができています。運営推進会議や地域包括支援センター会議(大麻地区、野幌地区)でも助言、意見をj得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修を通して、学ぶ機会を設け身体拘束の理解を深め、見逃すことのないよう、注意をはらっています。玄関の施錠は防犯上の問題から夜間のみ行っています。	法人に身体拘束適正化委員会が設置されており3か月に1度会議を行い、事業所としては身体拘束廃止委員会を毎月開催して内部研修を行い、毎月目標を立て職員同志でチェックを行い、「何が身体拘束なのか」「スピーチロックなのか」気づきに努めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修を通して、学ぶ機会を設け虐待防止に努めています。又、入浴時や更衣時等に、身体に痣などが出来ていないか等、状況を都度観察しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修を通して、学ぶ機会を設けています。必要に応じ関係機関への相談ができるよう支援していけるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が重要事項を読み上げながら説明し、不安や疑問点を一つ一つ確認しながら、納得しただけのよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、運営推進会議等で、御意見や要望を聞いたり、電話、ケアプランの説明時に意見や要望を聞く様に配慮しています。出来る事は取り入れて行く努力をしています。	利用者の意見・要望については、毎日の生活の中で把握している。家族の意見は運営推進会議、近況を知らせる手紙、ホームだよりの折に把握するように努めている。事業所の玄関に意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を中心に、意見や要望を出し合い、困っている事や、改善方法があれば、出来る範囲で対応しています。	管理者は、職員が意見を言いやすい雰囲気を日頃から作り、職員会議での意見交換、提案など日常的に気づいたことの共有を行い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の規定に添って、その人に見合った給与体系を設けています。また、病欠や希望休も業務に支障のない限りとれるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には、積極的に参加出来るようにシフトを組んでいます。又個人的にも研修が必要と思われる職員や、自分から研修の要望のある職員には、業務に支障のないよう配慮を心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他、会社のグループホーム職員などと電話やメールなどで情報交換などを行い、交流が途切れないよう行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴やご家族様との話し合いの中で、心配なこと等を把握し納得いくまで説明を行い、安心して頂けるよう職員間で情報共有し、介護の統一を行うことで安心して生活できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談に応じ、新型コロナウイルス対策をしながら見学に来ていただき、施設の様子を理解して頂きながら、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、他のサービス利用が必要と思われる方に対しては、他機関の紹介や、他科受診の必要性等も相談させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や、手作業等、本人が得意としている事を行えるような環境作りを行っています。小さなことでも一緒にいき生活の場を共にできるような場面作りを心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、面会時や電話等で都度入居者様の状態や状況、ご本人が本当に思っている事を汲み取りお伝えし、職員とご家族にて協力しながらご本人の支援にあたっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響があり面会に来られない時にはお手紙など届いております。 入居者様からの電話希望があった際は取り次ぎを行い関係を保つよう努めております。	コロナ禍のため家族との外出や馴染みの美容室に行くことはできないが、電話の取次ぎ、ドライブをしたり、敷地内の畑作業を通して地域との交流、隣接する公園の散歩、錦山天満宮の紅葉を楽しむなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に、利用者同士の会話や、普段の様子から状況を把握し、相性の良い人との席替等を行ったり、全員で行えるような、体操、歌、ゲーム等を行う時間を設けたりしています。また、職員がつながり役になり、自然な形で関わりが持てるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に立ち寄って頂けるよう声をおかけして、地域住民として関係性を断ち切らないよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りや普段の会話から、出来る限り希望に応じたケアプランに反映させ、プランに添った生活が出来るように支援しています。又、御家族様の希望も取り入れていくよう努めています。	日々の会話や表情から利用者の思いを把握し、家族からの情報を得て職員で共有し、希望、意向に添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様をはじめ、前施設の担当者より情報を頂けるような関係作りに努めています。出来るだけ沢山の情報を頂き、なじみの暮らし方を継続出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の食事量や排泄間隔、血圧、体温を把握し、記録に残し、センター方式も活用しながら、その人らしい生活と、現在の状態も把握するよう努めています。又、毎日の申し送りで小さな変化に気づけるよう心がけています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者の担当者を決め、職員会議やケアプラン更新時等に再アセスメント、モニタリングを行いプランに反映しています。又、本人、御家族様にもプランの説明見直し等意見をもらい、現状に合わせたプランを作成しています。	利用者、家族の意向を反映させ、担当職員の意見、介護記録などを参考に、医師・看護婦の意見などを聞いて6ヶ月毎に現状に即した介護計画を作成し、家族の確認を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や行動、ケアの実践はプランに添って行い、プランに添った記録を行っています。又問題点がある時は、申し送りやケアカンファレンスの時に話しあい、職員全員で対応策を考えたり、工夫して、職員が同じ介助を出来るだけ行うように話しあっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人やご家族様の要望に合わせて、通院、外出、美容室等も行けるように、柔軟に対応しています。 (新型コロナウイルスの影響にて見合わせる場合もあります。)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の往診医を利用され入居者様の健康管理を月に2回行われている。他に成年後見制度を活用し成年後見人を利用されている方もいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の主治医の往診、歯科医の訪問診療、口腔ケアの指導、定期的な往診の他にも、必要とされる時には適宜往診、訪問看護師の対応が出来るようにしています。又、他科受診が必要とされた方には速やかに対応しています。	家族、利用者の意向に沿ってかかりつけ医を受診している。家族が付き添い、又は職員が同行する。協力医が月2回往診し、24時間の支援体制ができています。歯科医の往診、看護師による健康管理も行って、利用者が安心して生活できる環境作りに努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1・2度定期的に看護師による、排泄、爪切り、健康管理、相談等の対応をされています。その他にも体調に合わせ、随時対応してもらるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんが入院時には、常に家族や病院と連絡を取り情報を収集し、退院後の対応等の説明を受け、御家族様の希望に添って、早期退院、帰設出来る態勢を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の施設としての方針を説明し、本人やご家族様と話しあい、出来る事と出来ない事を明確にして、納得された後に同意書を交わし、医療機関と連携、職員間での情報の共有に努め、可能な限りの支援を行います。	契約時に「重度化した場合の指針」に基づき、重度化した場合や終末期のあり方について本人、家族に説明し同意を得ている。重度化が認められた場合は、本人、家族、主治医と協議し、希望に添えるよう支援している。2年間で3名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が発生した時は、24時間連絡の連携体制を取っており、状況に応じて対応出来るようにしています。又、救急救命の研修も受けており、職員間でも振り返りの研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、緊急時に備えています。又、運営推進会議等で地域住民の協力を得たり、消防などからも助言を頂いています。火災以外での対応も想定し、施設の方が安全であれば、地域の方達に避難して頂く様にお話しています。	年2回火災訓練と地震訓練を行って、緊急時の職員連絡網を作成している。火災訓練時は防災機器事業者の立ち合いにより通報機などのチェックを行っている。非常用備蓄品、ポータブルストーブや電池など前回のステップに基づいて整備を済ませた。事業所を地域の避難所としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応はプライバシーに配慮して行っています。同性介助が必要な時には、職員の交代も行っています。個人情報を書かれた書類等は、目のつかない所に保管、不要な物はシュレッダーで処理しています。	当事業所で長く生活している利用者が多いので、個々の性格や考え方を適格に理解し、安心して生活できるようにトイレなどの言葉かけに気をつけてケアを行っている。個人情報の書かれた書類等は事務所で適正に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御自分から言い出せない人であっても、本人が発せられた言葉や表情をくみ取り、思いに添った生活が出来るように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの特性や生活歴等を考慮して、自分のペースを大事にした個性のある生活を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を考慮し、入居前から使用していた、好みの洋服等を着用できるように、御家族様の協力を得て、継続しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を基本にしなが、ご本人の嗜好や嚥下状態等に合せた形態で提供しています。また、入居者さんと一緒に家事を行うことで、楽しく食事ができるよう心がけています。	コロナ禍のため職員は同じテーブルで食事はできないが、利用者は能力に応じ、食器を用意したり、片づけなどの役割を喜んでしている。ごはんと味噌汁は事業所内で作り、誕生会などには希望の料理を出している。季節に応じて畑の野菜を使うなどして食事を楽しめるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事は都度チェックし、不足するようであれば定時以外でも臨機応変に対応しています。主治医の指示とご家族様の了承のもと、糖尿食や減塩食等の対応も実施しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け誘導を行って実施しています。口腔ケアのアセスメントを個々にとり、嚥下状態と合わせて個別の対応をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を利用することで、一人一人の排泄リズムを把握し、おむつに頼らない排泄誘導を行うよう努めています。	排泄パターンを記録し、表情、態度などから把握し、適時にさりげなく声掛けをしてトイレに誘導し、排泄の自立に努めている。トレーニングパンツ利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を把握し、下剤や、牛乳、ヨーグルト、繊維質の食材等で、早めの対応を行っています。下剤の服用には医師の指示を頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴出来るよう支援しています。その日の体調にあわせ、清拭やシャワー浴、翌日に入浴していただく等の対応を行っています。無理強いすることなく入浴出来るよう努めています。	週2回、2~3人で午前中の中入浴としている。体調に合わせて曜日を変えたり、ひとり入浴など希望に沿う支援を行っている。現在利用者は女性だけであるが、かつて異性を怖がる人があり、同性介助で支援をおこなった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外でも、ソファーやフロアで自由に横になる等、今迄の生活習慣を尊重し、好きな所で休息して頂けるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個別に保管し、どの職員が投与したか解るようにしています。用法や副作用等の資料も個別にファイルし、いつでも見れるようにしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味等を、しっかりアセスメントを取り能力に応じた家事や、読書、手作業等に取り組んで頂いています。また、無理強いする事なく、本人から参加されるような、雰囲気や声掛けを行っています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の身体状況により、全入居者様が外出レクに参加する事が出来ない場合もありますが、近隣の散歩は天気の良い日を見はからって、個別で数回行う事が出来ました。	コロナ禍で外出の制限も多いが、隣接する公園や町内の散歩を楽しむ。敷地内の畑で野菜作りに取り組み食事の時に収穫を味わった。また、桜や紅葉の季節にはドライブを楽しむなど外出支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金の所持は遠慮させていただいておりますが、お金を手元に持っていないのは不安な方に対しては少額をご家族了承の上お持ちいただいております。必要な日用品は、ご家族様もしくは施設で購入しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や、ご家族様からの手紙を受け取ったり、荷物が届いた時の、お礼の電話や、ご家族様からの電話の取り次ぎも、制限なく対応しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした空間づくりや、季節にあった飾り付け等を工夫しています。又、全員がくつろぐフロアは明るく、整理整頓し、清潔に気を配っています。又、DVD鑑賞やCD等で演歌、懐メロ等の音楽等を流し、居心地よく過ごせるようにしています。	共用スペースは広く、ぬり絵や写真等を飾り、窓から公園を一望できることから地域の人々が行き交う姿や子どもたちの公園で遊ぶ姿をみて楽しむことができる。自分の部屋で過ごすより、共用室でくつろぐ利用者が多く、食事中は音楽等を流し、家庭的でゆったりとした空間づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんで過ごせる場所や一人で過ごせる場所など、その時々の入居者さんの状況に応じて工夫しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた家具や、ご家族の写真等も持ち込まれ、本人やご家族様が、気持ちよく過せるように配慮しています。	押し入れが備え付けられ、使い慣れた家具等を持ち込み、家族の写真等を飾って居心地よく過せるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、食堂、浴室等には、用途に合わせて名札、暖簾を下げる等の対応を行い、混乱されない様に工夫しています。又転倒等を防ぐ為に、環境の整備を心がけています。			